

2章 推進の方向

1 小中学校における特別支援教育の充実

発達障がい等のある子を含めた全ての子を支える学校チーム支援体制の強化

(1) 発達障がい等配慮を要する児童生徒が安心して学べる授業づくり

【考えられる施策例】

- ・ 多様な子が在籍する学級ですべての子どもが力を発揮できるための指導
- ・ 特別支援教育支援員等の効果的活用支援
- ・ 発達障がいのある児童生徒への支援の充実
(得意を伸ばし不得意をケアする支援の充実)

・ 信州型ユニバーサルデザイン
(信州 Basic)推進プロジェクト
・ スタートカリキュラム

・ 特別支援教育支援員の手引き
事例集の作成
・ 研修への講師派遣

・ LDに係る早期アセスメントと
指導方法の発信
・ 地域(民間)との連携による
支援

(2) 必要に応じて適切な支援が受けられる「連続性のある多様な学びの場」の整備

- ・ LD等通級指導教室の拡充と、巡回・サテライト支援や相談支援体制の機能充実
- ・ 「共に学び育つ」力を育む特別支援学級担任の専門性の向上

・ LD等通級指導教室の増設
・ 教員の複数配置による巡回指導とOJTによる人材育成

・ 特別支援学校教諭免許取得率の向上
・ 実践的な研修の実施
・ 人事異動方針の検討

(3) 学校全体がチームで支援していくための体制づくり

- ・ 特別支援教育に関する「学校解決力」を高めていくことをリードする人材の配置と育成
- ・ 柔軟かつ適時適切に学びの場を見直すことができる校内支援委員会の機能向上
- ・ 学校と地域の関係機関との連携を促進するための仕組みづくり

・ 発達障がい支援をリードする教員(マネージメントリーダー 仮称)の配置
・ 管理職のマネージメント研修、教員育成プログラムにおける特別支援教育研修の強化

・ 校内支援委員会のプロセスや配慮点の周知

・ 特別支援教育コーディネーター連絡会等の機能強化

2 高等学校における特別支援教育の充実

多様な教育的ニーズに応える学びの保障

(1) 特別支援教育に係る専門性の向上

- すべての教員の特別支援教育に係る理解と支援力の向上
- 特別支援教育に関する「学校解決力」を高めていくことをリードする人材の配置と育成

【考えられる施策例】

- 外部人材を活用した、社会自立に向けた SST 等の実践的な研修の推進

- 発達障がい支援をリードする教員(マネジメントリーダー 仮称)の配置

(2) 多様な教育的ニーズに応じるための仕組の整備

- 通級による指導の着実な展開
- 特別支援学校高等部分教室と高校との互いの専門性を活用した教育活動の充実

- 通級による指導実施校の拡大と効果的な運営の確立
- 通級指導担当者の育成

- 分教室職員による高校への教育相談対応
- 高校の専門性を活かした分教室の教育の充実

(3) 卒業後を見据えた進路先や外部機関との連携の強化

- プレ支援シートの普及
- 圏域における連携体制の強化

3 特別支援学校における特別支援教育の充実

インクルーシブな教育を支える機能の再構築

(1) 中長期ビジョンに基づく特別支援学校の整備

- より近い場所で専門的な教育が受けられる体制づくり
- 県のファシリティマネジメントに基づき、特別支援学校の整備基本方針（仮称）の策定
※ ファシリティマネジメントとは、公共施設等総合管理計画 H32 策定予定
- 県全体のすべての障がい領域を、学校群全体（クラスター）で支援する体制

- 小中学校への分教室の設置拡大等の検討
- 副学籍の全県への普及推進

- 中長期的な特別支援学校のあり方の検討と、老朽化した校舎の計画的整備
喫緊の課題：松本養護
若槻養護
- 寄宿舎のあり方検討

- 異なる障がい領域の学校間ネットワークによる支援の強化

(2) 多様な教育的ニーズに対応する専門性の強化

- ・ 障がい領域別のより高い専門性の確保と、人材育成
- ・ 医療的ケア等を含む重度重複障がいへの支援の充実
- ・ ICT 機器を活用した学習・相談支援

【考えられる施策例】

- ・ **定数乖離解消**
- ・ **PT,OT,ST 等の専門職の導入**
- ・ 全県的な人材育成の仕組検討

- ・ 重度重複障がいの教育課程の研究
- ・ 安全な医療的ケア体制の充実

- ・ 障がい特性に応じた ICT 利用拡大
- ・ **ICT を活用した遠隔コンサルテーションの推進**

(3) 卒業後の多様な自立につながるキャリア教育の充実

- ・ 高等部分教室の拡大の検討と教育活動の充実
- ・ 地域と連携した、高等部教育の充実
- ・ 一般企業への就職を希望する生徒への支援の充実
- ・ 福祉就労・生活介護を希望する生徒への支援の充実
- ・ 生涯にわたる学びや社会とのつながりをつくる学習活動の充実

- ・ **分教室の拡大の検討**
- ・ 高校の専門性を活かした教育課程編成
- ・ 高校の特別支援教育への支援
- ・ **デュアルシステムの検討**

- ・ 地域企業や人材と連携した教育活動の推進
- ・ スポーツや芸術活動の推進

- ・ 就労コーディネーターの拡充
- ・ 技能検定の拡大・普及
- ・ **応援企業登録制度の創設(企業応援団 仮称)**

- ・ 生徒の実態に応じた学習内容や生活づくりの追究

- ・ **地域と連携した、障がい者スポーツや文化芸術活動の推進・拠点化**

(4) インクルーシブな教育を支えるセンター的機能

- ・ 小・中・高等学校の「学校解決力」を高めるための機能の再構築
- ・ 早期支援の充実（視覚障がい・聴覚障がいを中心に）

- ・ 教育相談担当者のコンサルテーション力の向上
- ・ **チームで支援を行う「地域支援の機能」の構築**

- ・ **視覚・聴覚障害の早期支援相談員の定数配置**

4 地域連携・就学相談

生涯にわたって子どもたちを支える切れ目のない支援体制

(1) ライフステージに応じた支援の充実

- ・ 早期のアセスメントの更なる充実と、集団の中での育ちにつなげる取組
- ・ 乳幼児期の特別支援教育等に関する相談・情報提供
- ・ 医療・保健・福祉・労働・教育等の関係機関の協働による支援体制の強化
- ・ ライフステージ間（乳幼児⇒小⇒中⇒高⇒進路先）の情報の接続強化

【考えられる施策例】

・ 保育関係者等への研修講師派遣、教育相談

・ 早期支援コーディネーターの配置

・ 地区代表者会を中心とした連携体制の構築
・ 圏域の自立支援協議会（療育・発達部会等）との連携強化

・ 個別の教育支援計画の作成と活用の促進
・ 幼保小、小中、中高連絡会の機能強化

(2) 市町村教育支援委員会の機能強化支援

- ・ 教育的ニーズに最も適した就学先決定を支える取組
- ・ 学びのフォローアップ（柔軟な学びの場の見直し）機能向上

・ 就学相談に関わるプロセスの明確化と共通理解

・ 特別支援教育推進員によるフォローアップ体制拡充

(3) 地域とのつながりづくりの理解啓発

- ・ 地域とのつながりの中で互いを知り、「共に育つ」機会の促進
- ・ 生涯にわたる学びや社会とのつながりをつくる学習活動の充実（再掲）

・ 副学籍の全県への普及推進（再掲）
・ 地域とつながる教育活動の推進
・ 応援企業登録制度の創設（企業応援団）（再掲）

・ 地域と連携した、障がい者スポーツや文化芸術活動の推進・拠点化（再掲）